



HPはこちら



テーマ

日報のデジタル化とInstagram採用情報強化

DXチャレンジのきっかけ

当社は飲食FC店舗を18店舗運営していますが、店舗ごとに業務手法や人材育成の進め方が異なり、ノウハウの属人化や情報共有の遅れが課題となっていました。人材不足や離職増加が続く中、経験や勘に頼る運営には限界を感じ、多店舗運営を支える人材育成と人材確保の仕組みづくりが必要と認識しました。そこで業務や育成状況のデータ可視化や採用プロセスのDXを進め、持続的に成長できる店舗運営体制の構築を目指しDXに取り組むことを決めました。

具体的な課題

01 日報集計の負担と情報共有の効率化

紙ベースの各店舗の日報集計や情報共有経路が異なり非効率な作業で担当者の負担が大きい。

02 Instagram活用の低迷

外注している採用促進のInstagramのフォロワーやインプレッションが少なく、採用サイトへの流入に繋がっていない。

伴走支援取組内容

日報のデジタル化

Googleフォーム 店舗入力

スプレッドシート 自動集計

Looker Studio 可視化

Google Workspaceを活用した一貫的な情報共有を検討。

Instagram更新内製化による発信強化

インサイト分析
現状把握

20案作成
カレンダー化

内製化体制
運用定着

更新頻度の増加を目指すための更新手順のマニュアル化を検討。

得られる成果（未来予測）

- ✓ 日報集計にかかる所要時間の**縮小**
- ✓ Instagram **フォロワーやインプレッションの増加**

DX推進度の変化

DX推進企業

67%
Before

DX先進企業

84%
After

+17%

~30% : DX準備企業 ~79% : DX推進企業 ~100% : DX先進企業

企業担当者の声

伴走支援を通じ、これまで経験や勘に頼る部分が多かった業務を客観的に見直す貴重な機会となりました。データ可視化や勤怠・シフト管理の仕組みづくり、AI自動面接の導入検討などを通じて、店舗運営や人材確保の課題を整理することができました。DXは特別な技術ではなく、日々の業務を見直し改善を積み重ねる取り組みであると実感しています。

今後DXにチャレンジする企業へのメッセージ

DXと聞くと大きなシステム導入を想像しがちですが、まずは自社の業務や課題を整理し、現状を可視化することが第一歩だと感じました。当社でもデータ可視化や勤怠・シフト管理の見直し、AI活用の検討など小さな取り組みから始めました。完璧を目指すよりも、できることから一歩踏み出すことがDX推進につながると思います。